

<全体分析>

試験時間 75分

解答形式

記述, 計算, 論述, 描図, 選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

例年通り, 時間的に余裕がない分量である。

論述問題や計算過程を書かせる問題は, 例年通り出題されている。

その他トピックス

本年度は無機化学からの出題がなかった。

〔3〕の問1では「ナフサとは何か」についての説明が問われており戸惑った受験生もいたと思われる。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔1〕	記述 論述 計算 描図	電離平衡	化学	酢酸の電離平衡を題材に, 電荷のつりあいの条件および物質の収支の関係式などを利用して, 酢酸の濃度変化に対する pH の変化を問う内容である。	標準
〔2〕	計算 描図	混合気体 気液平衡	化学	ヘリウムとメタノールの混合気体について, 圧力変化, 温度変化に対する各気体の分圧の変化や混合気体の体積の変化などを問うている。	標準
〔3〕	論述 記述 選択 計算	アルケン 芳香族化合物	化学	ナフサについての説明が求められた。また, アルケンの付加反応を題材に立体異性体を考える問題に加えて, 芳香族化合物では, ベンゼンが付加反応を起こしにくいことの説明, クメン法やアニリンなどの合成に関する内容, フェノールが置換反応を起こしやすい理由などが問われた。	標準
〔4〕	記述 計算	糖類	化学	β -グルコース, フルクトース, α -マルトース, スクロース, アミロース, アミロペクチンの構造が問われた。アミロペクチンのメチル化分析の計算問題も含まれている。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 論述問題が多いので, 平素から書く練習をしておくこと。
3. 煩雑な計算も出題されるので, 普段から筆算練習に力を入れておくこと。
4. 通り一遍な学習では太刀打ちできない内容も出題されるので, 問題演習を通して, 思考力も養っておくこと。